

製本のススメ

Vol. 175

女性活躍と叫ばれて久しい昨今 先日その手のセミナーでパネラーを務めてきました。働く事の意味をお伝えしましたが、弊社のブースは大人気！今どきの若いオトナは何の為に働くのかさえ見失っていますね。迷える子羊達よ、道を示しますから弊社で働きなさい（笑）

今回は**失敗を招く紙選び**の話し

表紙や本文に使う用紙を決めるのは、意外に難しいものです。まして見本帳で触った感触が良くても、印刷や製本に向かない用紙の種類や厚みが沢山あるというのは前回お話ししました。用紙を選ぶ際には **まず版型（大きさ）と後加工方法を決めておきましょう**。これが後手に回ると せっかく選んだ用紙が不向きである場合 話が振り出しに戻ってしまい納期の遅れにも繋がります。またページ枚数が多いからと薄い用紙を選択しても 糸綴りには向きませんし **オンデマンド機を通過した用紙は、湿気に弱く糊を多く使う上製本のような加工には向いていません**。紙厚が薄すぎると製本機械のスピードを上げられず短納期に対応ができない場合もあります。逆に紙厚がありすぎて折機械に対応できずスジ入れ・手折りになれば これもまた納期とコストに影響が出ます。**和紙やトレッシングペーパーは極めてデリケートで、多くの裁ち落としが必要**ですし **見返しとして使用するのに薄くて要をなさないのも困り**ものです。

昨今 束の薄い無線綴じも増えてきました。中身が薄いのに厚い用紙で表紙をつけると、極めて開きにくくエンドユーザーからすれば、見にくい冊子に出来上がります。特に束厚が1ミリ程度では、喉元まで広げると冊子の壊れに繋がります。この場合には中綴じ加工にされるほうが好ましいですね。

またコストを優先するあまり紙代の削減に目が行きがちですが、これもまた注意してください。特に紙目を間違えると 加工できないという最悪の事態になります。刷り直しはコストも納期も痛手となりますので**紙目は極めて重要です**。



Teabreak

この時期は不慣れな仕事がありますね。いつもの無線綴じや中綴じではない注文があることでしょうか。しかしここが踏ん張りどころ！一步前へ進むチャンスです。周りにも助けをもらいながら新しい仕事を体験しましょう。なんでも自分でまずやってみると、今まで見えなかったことも見えるようになりますよ。どんなベテランも最初は不慣れなのです。ぜひチャレンジしてみましよう

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本